

アカウミガメ *Caretta caretta* (Linnaeus)

【選定理由】

静岡県から伊良湖岬までの海岸線は、中部地方最大のアカウミガメ産卵地であるが、産卵数はピーク時の半数にも満たない。近年の傾向では一定の水準を保ってはいるが、この状況が大きく改善される可能性が少ない。

【形態】

雌の繁殖個体は、直甲長は平均 800mm 程度。頭部は大きく頑健。成体の背面は赤褐色。腹面は黄褐色。幼体はともに黒褐色。下顎鱗板は 2~4 対。通常肋甲板は 5 対。前額板は 2 対。重縁甲板は 3 対。背甲鱗板は敷石状で甲の周辺は平滑である。下顎鱗板が複数対あることで他のウミガメ類と区別できる。



豊橋市提供

【分布の概要】

太平洋、大西洋、インド洋に広く分布。地中海にも生息する。温帯、亜熱帯に産卵場所を持つ。国内での産卵は本州中部（石川県、宮城県）以南から九州の太平洋岸、南西諸島。県内では遠州灘に面する渥美半島外浜一帯（豊橋市、田原市）。知多半島や三河湾の島嶼でも産卵があるが少ない。

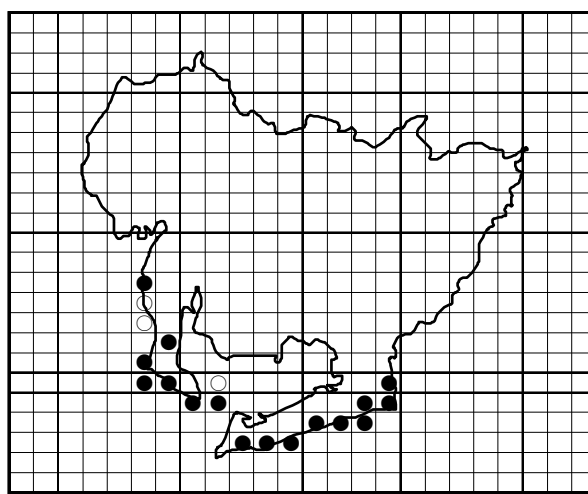
【生息地の環境／生態的特性】

砂浜海岸、沿海域、外洋に生息する。産卵場所として砂浜海岸、生育場所として海洋表層部を必要とする。産卵期は 4~8 月。雌は 2~3 回にわたり上陸産卵する。

【現在の生息状況／減少の要因】

海洋の生息状況は不明であるが、上陸産卵数はほぼ横ばい状態である。一番大きな要因は河川による砂の供給不足による、砂浜の減少である。併せて海岸利用の多様化による産卵環境の悪化がある。

県内分布図



【保全上の留意点】

上陸個体は人工光を感知して上陸を回避することが知られている。また、孵化した子ガメは明るい方角を海の方角と認識して光に誘引されてしまい、海に到達できずに外敵に襲われる。いずれも砂浜近くにある人工的な照明が本種にもたらす弊害であり、産卵地周辺に夜間照明を設置する際にはこの点に十分留意する必要がある。また、繁殖には静穏な砂浜環境が必要なため、砂浜利用による卵の踏みつけや上陸個体の攪乱により産卵環境が悪化しないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

種の保存法で国際希少野生動植物種に指定されている。また、県条例に基づく指定希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

豊橋市, 2019. 平成 30 年度 豊橋市におけるアカウミガメ保護調査活動に関する報告書.

(島田知彦)